

# メディアが再び騙された



[Steven Hentges, Ph.D](#)

2019年8月2日(金) [SAFETY](#)

最近のプレスリリースの見出しによると、プラスチック中のありふれた化学物質への曝露は、小児肥満に関連しています。見出しはさらに、新しい研究が「*BPA*の代替化学物質は消費者にとって安全ではないことを発見した。」と述べています。当然のことながら、ジャーナリストは無批判に餌に食いつき、プレスリリースに書かれた通りにネタを記事にしました。

ストーリーには見た目以上のものが遥かに少ないので、彼らは見出しの範囲を超えて読んで理解すべきだったのにそうしませんでした。新しい研究の根底にある前提は、BPA (ビスフェノール A) が「*オビーソゲン*(身体の恒常性を乱し肥満の原因となる化学物質)」として特定され、化学的に類似した他のビスフェノール類、特にビスフェノール S (BPS) やビスフェノール F (BPF) に置き換えられているということです。

「*オビーソゲン*」という用語は、約 10 年前に、体内の代謝プロセスを阻害し、潜在的に肥満を引き起こす可能性のある物質を表すために作られました。このトピックに関する研究は初期段階にあり、現時点では、*オビーソゲン*の定義や公衆衛生への影響に関する明確なコンセンサスはありません。

プラスチック中のありふれた化学物質の見出しを参照したところでストーリーが破綻し始めます。実際、BPF と BPS が BPA の代替品として使用されているという根拠はほとんどまたは全くありませんし、勿論これらの物質がプラスチック中に普通に存在すると言う根拠もありません。

そして、そこからは状況が悪化するだけです。科学論文の最初の文章では BPA が*オビーソゲン*であると主張していますが、同じ段落中で後に BPA は「一般的な肥満、腹部肥満、または任意の体重の結果と統計的に有意に関連していません。」と述べています。言い換えれば、段落の最初で述

べた内容と直接矛盾し、この研究では BPA は肥満と関連していませんでした。

しかし最も重要なことは、[科学論文](#)では研究の重要な限界が強調されていますが、プレスリリースではヒントさえありません。以下で全体を繰り返さなければならないほど限界は重要です。

「このトピックに関する以前の研究と同様に、我々の結果は慎重に解釈されるべきです。横断研究設計では、ビスフェノール類への曝露が体重増加または肥満に影響するかどうか、または肥満の子供がビスフェノール化合物への曝露がより大きい、あるいはビスフェノール化合物の排泄が多いかどうかを推測するのは不可能です。この研究に関する方法論的な問題点は十分に説明しました。」  
(強調筆者)

もっと簡単に言えば、この研究では研究設計によって、任意の物質をオビソゲンとして特定することはできないということです。この研究では、統計的関連性のみを調べていますが、物質と肥満の因果関係を立証する能力は全くありません。重要なことですが、この制限については研究のプレスリリースもメディアの報道からも完全に欠落しています。

この重要な制限を考えると、この研究では BPA あるいは所謂 BPA 代替化学物質の安全性を評価できないことはいまさら言うまでもありません。BPA 代替化学物質の安全性に関する見出しの大胆な主張に対する支持は完全な謎です。プレスリリースでは説明されておらず、科学論文では「安全」という言葉にすら言及しておらず、まして安全性を評価しているわけではありません。

BPA 自体の安全性については、米国食品医薬品局および世界中の他の規制当局の[見解](#)は非常に明確であり、きちんと証拠書類が提供されています。これらの当局は、現在の使用方法では BPA は安全であると一貫して宣言しています。プレスリリースでも当局の見解は書かれていません。